

令和3年度 山武市立成東東中学校「学校評価」結果の考察

1 はじめに

(1) 実施内容

- ①教職員の「自己評価」・「生徒アンケート」・「保護者アンケート」の3種類を実施した。
- ②質問事項を三者同一とし、比較できるようにした。
- ③質問事項の文言については、それぞれの立場に応じたものとした。
- ④教職員の「自己評価」のみ「特別支援」に関する質問項目を設けた。
- ⑤質問事項を精選し、マークシート方式とした。
- ⑥評価の実施は2回。時期は昨年度と同様に1、2学期末とした。
- ⑦三者（教職員・生徒・保護者）とも肯定率が80%未満の項目を今後の課題とする。

(2) 生徒・保護者アンケートの協力率（%）〈12月実施〉

対象	全体	1学年	2学年	3学年
生徒	84%	76%	86%	91%
保護者	91%	92%	89%	91%

2 考察

(1) 生徒・保護者アンケートの協力率について

- 生徒の協力率が100%に満たないのは調査当日の欠席者の数による。また、今年度タブレットを使用しての調査を実施し、タブレットの不具合や扱い等により協力率の低下がみられ、確実な調査方法の構築が今後の課題である。
- 保護者アンケートは生徒を通じて配付・回収している。回収については「保護者宛て文書」や「学校だより」、回収用の「カラーファイル」により協力依頼をするとともに、学級担任から生徒へ声かけを行った。その結果、多くの保護者から協力を得ることができた。前回の意見を参考に今回、無記名でのアンケート調査を実施した。今後も保護者との良好な関係を築き、このアンケートを保護者との意見交換の一つとし、学校運営に反映させる。御協力に感謝する。

(2) 全体的な傾向について

- 生徒・保護者の肯定率について、多くの項目において80%を上回る状況である。学校生活全体を通して、肯定的な要素が多いことがうかがわれる。
- 特に、学校満足度（大分類平均値）については、生徒が91%、保護者が83%とまずまずの肯定率であった。2年目の新型コロナウイルス感染症の影響が、それぞれの項目において影響されている部分もある。
- 大分類「学校経営・学校運営」「生徒指導」「学習指導」「学校行事」「部活動」「GIGA端末活用」の6項目のうち、80%を下回ったのは、「学習指導」の教職員・保護者、「部活動」の教職員、「GIGA端末活用」の教職員・保護者であった。
- 大分類「学習指導」において、小項目の「基礎・基本の定着」の教職員の肯定率43%、保護者の肯定率68%が全体の数値の中でも極端に低く、毎年の大きな本校の課題である。

(3) 学校評価アンケートから読み取れる本校の課題

学習指導・生徒指導・GIGA端末活用

毎年のアンケート結果からも、成東東中学校の継続した課題は、大分類での「学習指導」である。学力向上に向けて教職員の指導力向上を目指し、校内研修や学力向上委員会で議題にしながら取り組んではいるものの数値には表れない。特に教職員の数値が50切る数

値となり、状況の把握・授業の充実等、奮起が必須である。学力向上面においては保護者も心配していることであり、関心が高いことで、その期待に応える必要がある。指導方法の工夫・改善を常に図りながら学力の向上を目指す。

「生徒指導」では、80%は超えているものの、いじめ防止では80%を超えたという表現がふさわしい。学校側としては、学校生活において未然防止、早期発見、早期対応を心掛け、教育相談やアンケート等有効活用し、対応しているが、生徒間のトラブルは尽きず、情報共有し、継続して全職員で反応・対応・適応させ向上を図る。

学校経営・運営では、安全管理において三者とも97%という高い数値を超えた。今年度の感染症に対する対応への高評価をいただいた。感染症対策は今後も継続するものであり安堵せず、感染症対策や社会情勢に対応・対抗できる組織力を学校全体で構築していく。また、HPや配信メール等、きめ細かく情報を発信したことも学校への安心・安全面において肯定された数値となったと考えられる。

学校行事や部活動など学校生活全般（いじめ防止対策も含む）における回答は、85%を超える肯定率である。しかし、部活動における教職員側の評価は61%と例年にない数値が現れた。コロナ禍の部活動の練習や大会等、生徒・教職員ともにモチベーションが低下している状況である。冬場は下校時間が早くなり部活動の時間が短くなったことも要因の一つである。

「GIGA端末活用」において、急激な学習環境の変化が求められた1年であった。学習指導において、できないからではなく、活用していく必要のあるものであり、教職員全体でタブレットを活用した授業展開を継続してこう尽くしていかなければならない。今年1年活用してみて、タブレットを活用した授業におけるの良しあしを情報共有し、授業の効率化・教育効果のある活用方法を構築していく必要がある。日々変化のある社会や日常において、取り残されては、学力向上はありえない。

安定した肯定値については、職員が信頼される学校づくりに向けて、日々着実に取り組んでいることが評価されたと考えられる。この点も安堵せず、学校教育目標の実現に向けて、引き続き生徒が安心して安全な学校、保護者や地域の方々に信頼される学校をめざし、日々実践を継続することが責務である。

(4) 学力向上に向けての手立て 「学ぶ楽しさ⇒達成感・自信（自己肯定感）へ」（継続）

①指導力の向上

○生徒個々の学力や実態を考慮した「個に応じた指導（指導の個別化・学習の個性化）」を図る。

○きめ細かな指導を徹底するために、少人数指導の工夫やTT指導での習熟度別指導の充実を図る。

○学習委員会の取り組み～学力向上プログラムを企画

○ドリルによる繰り返し学習を積極的に取り入れる。（各教科授業内でも）

○単元テストによる形成評価とフィードバックの積み重ねによって、「基礎学力の定着」を図る。～振り返り学習の定着

○ICT機器を積極的に利活用し、生徒が興味・関心をもって授業に臨めるように工夫・改善を図る。ICT支援員の活用。～タブレット、冒険くん、デジタル教科書など

○eライブラリの有効活用（職員研修を通して職員の利用率をあげる）

～授業教材（プリント活用）、家庭学習利用、ドリル学習、調べ学習、入試問題演習、学習記録など多岐にわたる活用をめざす。

○「ちばのやる気ガイド」（千葉県教育委員会）の活用

○社会的なものの見方・考え方～社会科新聞作成、各コンクールへの応募